

のらぼう



【事務局】

住所：川崎市多摩区菅2-6-1
電話番号：044-944-2107
(川崎市立菅小学校内)発行責任者／羽鳥祥子
編集責任者／國分朋子
編集発行／広報委員会2025年度まとめ
菅中学校区地域教育会議 活動報告号

子どもがいきいき育つまち

おとなも楽しく学べるまち

私たち**菅中学校区地域教育会議**は、「菅小学校」と「菅中学校」の学区を対象に活動を行っています。菅中学校区域(地図の枠内)の「町内会・子ども会・青少年指導員等の地域住民」「小中学校の教職員・保護者」など、様々なメンバーから構成されており、川崎市教育委員会が市内全中学校区、行政区に委託・推進している組織です。

議長挨拶

菅中学校区地域教育会議 議長 羽鳥祥子

2025年は、小中学校両校で校長先生とPTA会長の交代があり、私たち「**菅中学校区地域教育会議**」にも、いつも以上に**新しい風が吹いた一年**でした。新しいメンバーを迎えることで、これまで当たり前と思っていたことを見直したり、活動の意義について改めて考え合ったりする機会が増えました。また、川崎市の「地域教育会議」が目指す「**学校と地域のよりよい連携のあり方**」についても、首藤校長、板橋校長をはじめ運営メンバーで話し合いを重ね、2026年から新たなチャレンジを進めていく予定です。

さて、2025年の締めくくりには、うれしいニュースもありました。今年3月に菅小学校を卒業した森田美陽さんの作文「**地域の人に感謝を**」が『文詩集 かわさき』に掲載され、その中で菅中学校区地域教育会議について触れてくれたのです。

「・・・私は最近、地域教育会議の活動方針が『**子どもも大人もみんなで意見表明と意見交換ができる環境づくり**』であることを知った。・・・」

私たちは、この言葉に大きな励ましをいただきました。子ども会議の実践や啓発してきたことが子どもたちに届き、受け止められていたこと、とてもうれしく感じています。

菅子ども部会公式サイトのコラムで閲覧できますので、ぜひご覧ください。

<https://sites.google.com/view/sugekodomobukai/%E3%82%B3%E3%83%A9%E3%83%A0>

これからも、「地域教育会議」の意義を大切にしながら、**地域のみなさん、地域の子もたち、学校がともに支え合い、持続可能な形**で歩んでいけるよう取り組んでまいります。



菅子ども部会コラム



2025年度 活動報告

- 6月 総会
- 9月 「子ども会議」委員会 第1回ディスカッション型子ども会議
- 10月 「子ども会議」委員会 第2回ディスカッション型子ども会議
- 11月 第1回ネットワーク会議 グループ討議
- 12月 「子ども会議」委員会 体験型子ども会議「冬フェスタ」
- 1月 「教育を語るつどい」委員会 「地域の仲間と語り合おう」
- 2月 運営・環境委員会 イベント「菅の町・名所を歩く」
- 3月 第2回ネットワーク会議 活動振り返りとグループ討議

2025年度総会の様子



運営委員会

当会議では毎月1回程度、役員と各委員長が運営委員会にて集まり、話し合います。総会やネットワーク会議の企画テーマ決めなど全体を企画・調整・運営する中核的な役割とともに、運営委員会メンバーは他地区・行政区との情報交換の場にも参加します。また各委員会の活動報告や調整、イベント要請、そのほか学校との連携も含め、全体の活動を支える前向きな話し合いと意識共有を、真剣に！和気あいあい！と都度重ねています。25年度の運営委員会は合計10回行われました。



2025年度の仲間

「子ども会議」委員会



「教育を語るつどい」委員会



議長・両校長



環境委員会



広報委員会



環境委員会

委員長 鈴木健一



2月の「菅の名所を歩く」では、事前に学習動画を視聴した上で史跡や石碑を巡り、生徒が熱心に地域の歴史に触れる貴重な機会となりました。また、校区内のAEDの設置調査を行い、緊急時の利用しやすさを共有するなど、安全面の環境整備にも注力しました。次年度より委員会組織は改編されますが、今後も子どもたちの学びの環境維持への継続的な配慮が望まれます。

2025 菅中学校区地域教育会議 特別企画

菅の町・名所を歩く

自分の住んでいる菅の町のこと、菅の歴史、知っている？ 望月雪桜さんの話を聞いて実際に歩いてみよう！

2026.1.30 (金) 15:30～ 図書館にて
「自分の町を歩く」(Q&A)、「菅の町」の歴史を学ぶ。望月雪桜さんの講話。

2026.2.7 (土) ※雨天中止
【集合】 9:15 (菅中学校)
【開演】 12:00 講演室 (菅中学校)
【参加費】 菅中学校生有志と地域教育会議スタッフ
【申込】 申込用紙(申込書、氏名、住所)を提出
【持ち物】 金銭(おやつ、水筒、筆記用具)
【その他】 申込用紙を提出してください

菅中学校創立50周年を記念して、特別企画！

テーマ:菅の町・名所を歩く

～自分の住んでる菅の町のこと、菅の歴史、知ってる？
地域の大人に話を聞いて触れてみよう！～

2月7日(土)、環境委員会・運営委員会の共同企画「菅の町・名所を歩く(川編)」を実施しました。今回は「川コース」を巡り、地域教育会議のスタッフや教職員とともに、**菅の町に残る歴史や自然、水辺の文化**を学びながら歩きました。

今回は、事前学習として1月30日(金)に**望月雪桜氏**を講師に迎え、**菅の町の歴史について学ぶ座学**を行いました。当日は中学生8名が参加し、昔の地図や資料を見ながら、多摩川との関わりについてお話を伺いました。かつて菅村の多摩川は大雨の大水害のたびに流れを変え、また「百村川(三沢川)の大曲がり」と呼ばれる大きな蛇行があったこと、**流路の変化によって村の様子や人々の暮らしも変化**してきたことなどを、昔の地図を見ながら学びました。また、庚申塔(こうしんとう)や六地藏など、**地域に残る石造物には、人々の暮らしの安全や祈りが込められている**ことも教わり、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。



事前学習動画の一部 菅の歴史について学びました！



菅に残る多くの歴史的石造物

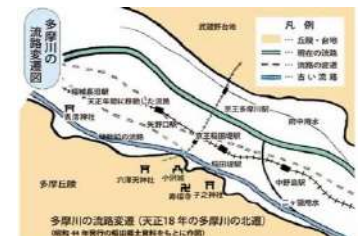
ぜひ皆さんも探してみてください。菅の歴史を知るともっと身近に！



そして2月7日には実際に川コースを歩き、(写真は左から)「樋口(とよぐち)の地蔵」「馬頭観世音塔群(ばとうかんぜおんとうぐん)」「菅渡船場跡碑(すげとせんばあとひ)」「たとうさま」「とうか森稲荷」などを巡りました。当日は少し雪が舞う寒い天候でしたが、生徒たちは地域教育会議のスタッフや先生方と一緒に説明板を読み、「ここにこんな歴史があったんだ」と驚きながら地域を歩き、普段見慣れている町の風景を新鮮な気持ちで見つめていました。歩きながら地域の大人の方々と自然に質問や会話をする様子もあり、**世代を超えた交流の時間**にもなりました。

終了後の感想共有やアンケートでは、「いつも通る道に歴史があることを初めて知った」「昔の人が多摩川とともに暮らしていたことが分かって面白かった」「地蔵や庚申塔の意味を知り、今までとは見え方が変わった」などの声がありました。また、「地域の方が詳しく説明してくれて分かりやすかった」「実際に歩きながら学ぶことで印象に残った」「また別のコースも歩いてみたい」といった感想も多く、**自分たちの住む町への関心**が高まった様子がうかがえました。

今回の活動を通して、生徒たちは地域の歴史や文化を“知識”として学ぶだけでなく、**自分たちの足で歩き、見て、聞くことで、菅の町の魅力をより身近に感じる**ことができました。地域の方々との交流も含め、菅の町の歴史への理解と愛着を深める貴重な機会となったのではないのでしょうか。



「子ども会議」委員会

委員長 佐々木由果

『冬フェスタ』は内容が毎年同じであるという課題があり、以前より競技の見直しを求める声がありました。しかし、企画変更の難しさから話し合いは進んでいませんでした。そこで中学生にアンケートを行い、その結果をもとに委員会で話し合いを重ねました。小さなことでも形にすることを意識して実施した結果、子どもたちの笑顔が見られるとともに、改善につながる点も見えてきました。これらを今後の活動に生かしていきたいと思います。



ディスカッション型子ども会議

日時：2025年9月24日(水)

会場：菅中学校図書室

参加者：小学生4名、中学生29名、大人スタッフ16名

テーマ：「冬フェスタについてみんなで考えよう！」



9月24日(水)、菅中学校図書室にて、第1回D型子ども会議が開催されました。今回のテーマは「冬フェスタについてみんなで考えよう」です。事前に菅中生を対象にアンケートを行い、その結果をもとに、参加した小中学生が冬フェスタをより魅力的にするためのアイデアを出し合いました。アンケートを実施したことにより、どのようにしたら魅力的な冬フェスタにすることが出来るか意識的に考えるきっかけになったようです。

話し合いの中では、冬フェスタは認知度が高い一方で実際にはまだまだ参加経験のない生徒も多いこともあり、参加につなげるための新しい工夫や内容が必要であることがわかりました。

会議では、「中学生も楽しめる企画」「謎解きやクイズ、カードゲーム」「部活動を活かした内容」「友達と参加しやすい仕組み」「景品や参加賞」「チラシや動画でのわかりやすい発信」など、企画する大人側からの発想を超えた子どもたちならではの新しい具体的な意見が多く出されました。

子どもたちが自分の考えを伝え、友達の意見を聞きながら、冬フェスタをよりよくするために話し合う姿が見られ、活発で有意義な意見交換の場となりました。今後は、今回出された意見を参考にしながら、小学生も中学生も参加したくなる冬フェスタづくりに繋げていけるよう、また一緒に企画することを目標に子ども会議委員会では活動を深めていきたいと考えています。



日時：2025年10月23日(木)

会場：菅小学校図書室

参加者：小学生9名、大人スタッフ9名

テーマ：「世界の子どもの権利かるた」かるたで学ぼう子どもの権利

10月23日(木)、菅小学校図書室にて第2回D型子ども会議『かるたで学ぼう子どもの権利』が開催されました。

合同出版のSDGs教材「世界の子どもの権利かるた」を使い、遊びを通して子どもの権利について考える会として実施しました。参加者は9名で、かるたを楽しみながら気になった札や感じたことについて話し合いました。読み札には、「ありのままの自分をみとめてほしい」「ルールってみんなで決めるものだね」「子どもの権利をもっと学び合おう」など、子どもたちにとって身近で考えやすい内容が多くあり、参加した子どもたちは、それぞれ気になった札を選び、自分の考えを言葉にしていました。

実施後のアンケートでは、参加者全員が「子どもの権利について興味があった」「また参加したい」と回答しました。また、「自分にも権利があることを初めて知った」「たくさんの権利があることにびっくりした」「みんなが安全にらせるための決まりだと思った」などの感想も寄せられました。

かるたを通して、子どもたちが楽しく学び、自分の生活や気持ちと結びつけながら「子どもの権利」について考えることができた有意義な時間となりました。



体験型子ども会議

「冬フェスタ」

2014年「菅グランプリ」の名前ではじまった**体験型子ども会議「冬フェスタ」**は、コロナによる影響で2020・2021年度は中止となりましたが、2022年度の春フェスタを入れて今回で**10回目**となりました。今回は事前にイベントのPR動画を作成し、冬フェスタの楽しさや意義を伝えながら参加を呼びかけました。動画では、これまでの活動の様子とともに、「楽しく遊びながら交流と対話をする時間」「地域の人とつながることは子どもの権利の1つ」「冬フェスタは菅小・菅中と地域のおとなの大切なつながりのイベント」というメッセージを届けました。

当日はまずスタッフ皆で流れについて子どもたちが楽しく安全に競技出来るよう事前に準備話し合いが行われ、その後集まった小中学生を学年を混ぜた6グループにし、グループ対抗で6つの競技を行い競技上の順位とチームワークを競いました。異学年同士で声をかけあい、誰でもできる競技を通じて協力や交流を深めるものとなっています。また、審判は地域の大人、学校教員が行い、参加した**子どもたちは地域交流、異学年交流、初対面同士の意見交換の経験**も兼ねます。

日時：2025年12月6日(土)

会場：菅中学校体育館

参加者：小学生35名、中学生7名、
大人スタッフ（高校生含む）36名

テーマ：冬フェスタ（ミニ運動会）



**グループに分かれ、
まずは仲良くなろう！**

異学年ミックスのグループに分かれ、まずはお互いに自己紹介をします。今年度は小学生のみの参加でしたが、5・6年生が上手にリードしていきます。初めはぎこちない低学年の子どもたちも高学年のお兄さんお姉さん、周りでそっと声掛けする大人たちに見守られ、すこしずつ緊張もほぐれていきます。チーム対抗競技についてルールをみんなで確認したり順番やコツなども話し合ったりしながら**ワイワイと作戦会議**していきます。

楽しく競技♪競技にはチームワークと声掛けが大切！

リーダーを中心に協力し合い、サーキット競技6種類を順番に進めていきます。また途中で休憩1か所を入れるため、休憩中は作戦会議をしながら他のチームの頑張りをのぞき自分たちのチームで取り入れられることを相談しているチームもありました。

★ブラインドサッカーPK ★玉入れ ★ペットボトルボウリング ★ふわふわフリースロー ★走れジョン ★パイプライン

各競技の採点する大人スタッフは得点数だけではなく、見守りながらチームの声掛けや団結力の様子なども見ていきます。はじめは進め方や競技の順番に戸惑う低学年もいましたが、高学年がルールをわかりやすく説明してあげたりチーム内の雰囲気盛り上げる言葉かけをしたりチームを引っ張っていく様子も見られ、一緒にチームを盛り上げ声を掛け合うことで**学年を超えた繋がりが交流**がうまれていました。最後は先生チームも参加し、一斉に「高さで勝負カブラ積み」で全競技が終了しました。

競技を通して仲良くなったみんな、菅のまちについて話し合おう！

チーム戦を終えて仲良くなったあとは、**各グループごとにミニ会議**が行われました。「菅の町でからだを動かして遊べるところ」「遊んでいるときに家族以外の大人から怒られたことがあるか」をテーマに意見交換をしていきます。グループ発表では**子どもの目線**から見える「菅の町の遊び場事情」がうかがえる意見がたくさん出ました。

終わった後は、中学生と大人スタッフ一緒に振り返りの会

冬フェスタ終了後、競技に参加した中学生と大人スタッフの地域教育会議メンバー・教職員らで振り返りの意見交流会が行われました。こうしたスタッフ同士の気づきの意見や反省や次に繋がる意見交流は地域教育会議として貴重な時間の一つです。

振り返りでは、参加した中学生から「中学生同士も声をかけ合って、小学生をまとめられたのでもいい経験ができた」「低学年との交流はなかなかないので貴重な機会だった」といった感想がありました。学校生活だけでは得られない、地域の中での学びやリーダー経験につながったことがうかがえます。

大人スタッフからも「久しぶりに中学生が参加してくれてよかった」「中学生が小学生をまとめる姿が頼もしかった」「地域の人たちと子どもたちがつながり合っていると感じた」などの声がありました。

今回も子どもたちが楽しく遊びながら、声をかけ合い、協力し、自分の役割を考える姿が多く見られ、地域で子どもたちを育むことの大切さを改めて感じる一日となりました。今後も、子どもたちの声や参加しやすい工夫を取り入れながら、冬フェスタがより魅力ある「地域のつながりの場」として位置づいていくのではないのでしょうか。



「教育を語るつどい」委員会

日時：2026年1月24日(土)
場所：菅中学校体育館
参加者：35名

テーマ：子どもがいる場所のリアル

～子どもの居場所にたずさわる人の話を聞いてみよう～

【当日の内容】

- ◆菅地域の3つの団体紹介
- ◆みんなで語り合おう
(グループ討議)
- ◆感想・意見交流

世代や立場の違う大人たちが、子どもをキーワードに話し合い、意見を共有できる機会を提供したいと始めた2025年度の活動。今年度は、テーマを「子どもの居場所のリアル ～子どもの居場所にたずさわる人の話を聞いてみよう～」として教育を語るつどいを開催しました。

菅中学校、愛児園学童ホール、菅子ども部会の3つ団体から、普段はなかなか見ることのできない貴重な現場のリアルをお話いただき、後半は講師を交えた35名が5つのグループに分かれてグループワークを実施し意見交換もする事が出来ました。取り組みが遅れて十分な募集期間が取れなかったことが反省点であり、フォローをしていただいた委員の皆さま、そして快く講師を引き受けていただいた3団体の皆さまには心より感謝申し上げます。



委員長
山本勇樹

1月24日(土)、菅中学校体育館にて「子どもがいる場所のリアル」が開催されました。

- * 菅中学校
- * 菅子ども部会
- * 愛児園学童ホール

上記の3団体より、異なる立場から現在の子どもたちを取り巻く状況や課題、居場所づくりへの思いが語られ子どもたちに関わる現場の「リアル」についてお話をいただきました。

学校教育、地域活動、学童保育の活動や現場と実情、たずさわる方々の子どもたちへの思いや熱量、また行政からの支援や補助、経営の問題についてなど話は多岐にわたり、参加者はみな興味深く耳を傾けていました。参加者の中には各団体名と存在は知っていても接点がなかった方も、実際にこのような活動で菅の子どもの居場所が支えられていることや、多くの子どもたちの社会性が育まれていくきっかけになる様々な活動や居場所があること、様々な事情があるご家庭の様子やそれを支えている団体、また繋がり的重要性を知ることができたのではないのでしょうか。

その後のグループワークでは、教職員、PTA、子ども会関係者、民生委員、地域住民など様々な立場の参加者が意見交換を行い、「地域で子どもを支えること」について考えを深めました。また、初参加の方も多く、地域教育会議の活動を知るきっかけにもなりました。

アンケートでは、「地域の活動を知ることができた」「様々な立場の意見を聞いて良かった」など多くの前向きな感想が寄せられ、今回の企画では、学校・地域・学童保育という異なる立場から、子どもたちの居場所について考える貴重な機会が得られるものでした。また、講演を聞くだけでなく、グループワークを通して参加者同士が交流し、それぞれの立場から意見交換できたことは、大きな成果だったのではないのでしょうか。子どもたちを取り巻く環境が変化の中で、地域全体で子どもを見守り、支えることの大切さを改めて共有する場となりました。

今後も多様な立場の方々がつながり、子どもたちの居場所づくりについて共に考えていける意識共有の時間もたれるイベントを「教育を語るつどい」委員会では目指していきます。



菅中学校 板橋美由紀 校長



厚生館福祉会 愛児園学童ホール
斎藤悦子 様

厚生館福祉会 愛児園学童ホール
林 大雅 様



菅子ども部会
板谷越幸一 部会長

「教育を語るつどい」委員会で長年活動されてきた鹿島さん（25年度退任）より、これまでの思いや地域への願いを寄せていただきました。

記：鹿島 智氏（住民委員）



菅中学校区地域教育会議に十年間参加させていただき、本当にありがとうございました。なかでも、全期間を通して「教育を語るつどい委員会」に携わることができたことは、大変貴重な経験であり、振り返ると懐かしく思い出し、委員会が少しずつレベルアップしていく過程を間近で感じられたことは、大きな喜びであり、同時に退会する寂しさもあります。

年1回のイベントに向けてのメンバーとの意見交換では、地域とのつながりを大切にしたいという思い、子どもたちの生活や学校の先生のお役に立つには何ができるかなど、十人十色の多様な意見が交わされ、時には喧々諤々の議論となることもありましたが、そのすべてが貴重で学びの多い時間でした。

菅地域の住民として、より多くの方に委員会へ関わっていただければ嬉しいですし、一度その活動の様子を見ていただければ、魅力を感じていただけたと思っています。歴代の議長、委員長、そして委員の皆さまに深く御礼申し上げ、地域教育会議のますますのご発展をお祈りいたします。

菅の地域伝統行事の紹介も

一人一人が地域のみんなといろんな経験を通して、子ども時代の良い思い出を作してほしい。すべては子どもたちのためにみなお手伝いさせていただいて、それが子どもたちやご家族の笑顔につながっていけたらいいな、と。

一番大切にしていることは、子どもたちの居場所づくりというだけではなく、子たちが成長していける場所。そういう成長していく姿をこの地域で見られることが幸せだな、と感じています

教職員もみな忙しいが、根底にあるのは先生方みんな「子どもたちが好き」という思い！

先生の一日の様子や生徒たちとの向き合い方の紹介

参加者からの質問に答える場面

グループ討議の様子

参加後のアンケートでは、今後につながる前向きな意見が多く寄せられました

- * 「学校以外にも、子どもたちが社会性や協調性を学べる場があることを知ることができた」
- * 「地域の方々の熱量を感じた」
- * 「現代の子どもたちを取り巻く環境の難しさを考えさせられた」
- * 「学童や子ども会について具体的に知ることができた」
- * 「グループワークで様々な立場の意見を聞けて良かった」

今後への意見・要望

- * 「もっと多くの人に知ってもらえるよう広報を工夫してほしい」
- * 「子ども自身も交えて話し合える場があると良い」
- * 「中高生の居場所やフリースクールについても知りたい」
- * 「塾や習い事など、学校外教育についての話も聞いてみたい」



2025年度は2回のネットワーク会議が開催されました!!

菅中学校区地域教育会議のネットワーク会議のグループ討議では 全員参加型、必ず参加者全員が発言します

他の考えや意見にも耳を傾け互いに理解しようと参加することにより、地域の様々な事柄や問題に対して自分事として考え意見を持ち委員同士の交流を深めるきっかけになります。

「学びあう場・所属の委員会を超えて語り合う場」として、大切な位置づけとなっています。

第1回

■2025年11月6日(木) 18時半～ ■会場：菅小学校図書室 ■参加者：29名

グループ討議▶「部活動の地域移行について」
共有資料を読んで討議しましょう。

※共有資料：ベネッセ教育用語解説「部活動地域移行」→→→



第一回ネットワーク会議では、オブザーバー団体の紹介と、6つのグループに分かれ**部活動の地域移行**について現状の課題や今後のあり方について意見交換を行いました。

今回は、事前にベネッセの「**部活動地域移行**」に関する資料を参加者全員で共有し、それぞれ内容を読んだ上でグループ討議を行いました。資料を踏まえながら、**現状の課題や地域移行の可能性についてさまざまな意見交換**が行われました。討議では、まず「先生方が大変そう」という印象は多くの参加者が持っている一方で、実際にどのような負担があるのか、地域や保護者には十分見えていないのではないか、という意見が出されました。これまで部活動が、**教員の熱意や善意によって支えられてきた面**も大きく、その現状を共有していく必要があるのではないかという声がありました。また、

- ・《**地域移行**》と言っても、実際に誰が担い手となるのか
- ・**学校と地域をつなぐ役割を誰が担うのか**がまだ分かりにくい

という課題も挙がりました。共働き家庭が増える中で、**地域で支える仕組みづくりの難しさ**についても話し合われました。一方で、**部活動には、学年を超えた交流や仲間づくり、学校以外の大人との関わりなど、子どもたちの成長にとって大切な役割**があることも改めて共有されました。SNS中心になりやすい時代だからこそ、**人と直接関わる場としての意義を感じる**という意見もありました。

さらに、「今の部活動の形は限界に来ているからこそ、**地域移行**という案が出ているのではないか」という意見もあり、単に“地域への丸投げ”ではなく、**学校・地域・行政が連携**しながら進めていくことが重要であるという考えが共有されました。地域教育会議や地域スポーツ団体、地元出身の大学生など、地域の人材を活用できる可能性についても意見が出されました。

先生方の働き方改革に私たちもさらに関心を寄せて理解を深めながら、**地域全体で子どもたちを支えていく**ことが大切であり、「地域みんなで子どもを育てる」という視点を共有する有意義な討議となりました。

【部活動の地域移行について】

現在、全国で「部活動の地域移行」が進められていますが、まだ全国的に十分定着しているとは言えず、菅中学校も含め多くの地域で“移行の途中段階”にある状況です。背景には、少子化や教員の長時間労働といった課題があり、国は休日の部活動を中心に、学校主体から地域主体へ移していく方針を進めています。しかし実際には、

- * 地域ごとの人材確保
- * 指導者不足
- * 費用負担
- * 送迎や安全面
- * 学校と地域の連携体制

など、多くの課題があり、地域によって進み方に差が出ています。役割分担がまだ明確でない部分も多く、現場では試行錯誤しながら進めている状況です。



第2回

■ 2026年3月13日(金) 18時半～ ■ 会場：菅小学校図書室 ■ 参加者：34名

- ・ 一年間の振り返り
- ・ 異国生まれ、菅地域で育った若者のお話
- ・ ワークショップ「子どもの権利を身近に感じるゲーム」

誰もが安心して自分らしくいられる街へ

～「子どもの権利」と「居場所」の大切さを考える～

2025年度の締めくくりとなる第2回ネットワーク会議では、1年間の活動の振り返りと共に、**地域で育った若者の視点から「居場所」について考える貴重な時間**となりました。

■ 1年間の歩みを振り返る

はじめに広報委員会からの資料をもとに、この1年間取り組んできた各委員会の報告とともに活動を振り返りました。豊かなつながりの中で、多くの方々と交流できたことを改めて共有し、次年度への活力を養いました。

■ 若者の体験談：地域という「第三の居場所」



続いて、**菅小・菅中学校の卒業生**であり、現在は**東洋大学国際学部で学ぶ伊藤 一(はじめ)さん**にご本人が作成したスライドをもとに自身の歩みを語っていただきました（当日は体調不良のため、スライドと音声での参加となりました）。

海外から移住した幼少期に直面した「言葉の壁」や夜間の孤独、そしてその後を訪れた家庭環境の深刻な困難。自殺を考えるほど追い詰められた時期もありましたが、そんな彼を救ったのは、学校の先生や友人、部活動、そして地域にある「居場所」でした。そして困難な状況に直面した際の葛藤や心の機微が率直に語られました。

「**行政の支援が届きにくい家庭の隙間を、地域の居場所が埋めてくれた**」この感謝の想いと経験が、現在の伊藤さんの多彩な活動の原動力となっています。

伊藤さんは現在、「**地域への恩返し**」として、**菅小の寺子屋「菅人」**の活動に携わっているほか、**母校・菅中学校**で海外にルーツを持つ子どもたちの**学習サポーター**を務め、かつての**自分と同じ境遇にある子どもたちを支えています**。さらに活動はそれだけに留まらず、二十歳100人ダンス映像プロジェクト「**ハタチたち4**」の副リーダーとしてダンス映像制作などの表現活動に挑戦したり、多世代交流の場づくりを行う「**マチノパスル**」に参加して町の人と活動したりと、多方面で「**地域のつながり作り**」に奔走されています。

「家庭でも学校でもない、第三の居場所」がいかに子どもを救うか、行政の支援が届きにくい**隙間を地域のつながりが埋める重要性**など、伊藤さんの力強いメッセージは、参加した私たち大人の胸に深く響きました。

東洋大学国際学部

はじめ

伊藤 一さん

(菅小・菅中卒業生)



■ 楽しく学ぶ「子どもの権利」

後半は6つグループに分かれ、「**なんでやねんすごろく**」を行いました。日常の何気ないシーンに潜む「**子どもの権利**」について、すごろく形式で楽しく、かつ真剣に考えるゲームです。

伊藤さんのお話を聞いた直後ということもあり、参加者たちは「この状況は子どもの権利としてどう守られるべきか」「地域で何ができるか」といったことも考えながらゲームと意見交換をしていました。

子どもたちが困難に直面したとき、この町に「逃げ込める場所」や「ありのままにいられる人」がいること。それが、**子どもの権利を守るための大きな土台**になります。**菅中学校区地域教育会議ではこれからも地域のつながり**を深めていきたいと考えています。



「なんでやねん!すごろく」は「子どもの権利条約関西ネットワーク (<https://kodomonokenrikansai.wixsite.com/network>)」さんが子どもと一緒に作成した子どもの権利条約を学べるすごろくです。





地域教育会議ってなあに？



1980年代、校内暴力で荒れる学校や少年による事件が多発し、川崎でも深刻な事件が起き、教育の危機が指摘されました。そこで川崎市では、市内の全小学校を会場に教育集会を開催。242か所、参加者延べ4万人から出された6,500件の意見をもとに、地域からの教育改革をめざして「**地域教育会議**」が提案されました。1990年に3つの中学校区で試行設置され、1998年には51の中学校区、7つの行政区すべてに設置されました。また管中学校区地域会議は1992年に設置されました。



地域と学校、行政が共に協力して子どもがいきいき育つまちを作ろうというものです。
そして、おともも楽しく学べるまち、
ひいてはあらゆる人々が共に生きる地域社会を目指します。

委員構成

子どもに関わる機関団体と住民委員が緩やかなネットワークを活かして活動します。



主な活動

会の運営では話し合いを大切にしています。そこでの合意形成が様々な取組を生みだします。
具体的な取組としては「教育を語るつどい」と「子ども会議」の開催があります。その他の活動はそれぞれの会で創意工夫されて行われていて、管中学校区では環境委員会、広報委員会も活動しています。また、地域からの教育改革をめざすこの会の重要な活動として、学校や行政への提言があります。



子ども会議の開催

地域教育会議の活動の中で大きなウェイトを占めてきたのが子ども会議です。川崎市が2001年に施行した「子どもの権利条例」の趣旨に基づいて行われています。

※子ども会議ホームページ
「川崎市 子ども会議」で検索



私たち「**菅中学校区地域教育会議**」は、菅の地域に根付いた「生きる力」を育む取り組みと活動を行っております。「地域」「教育」「子ども」をキーワードに、子ども世代だけでなく大人も共に学び、話し合い、コミュニティ全体の豊かさを創造していきたいと考えています。



菅中学校区地域教育会議
初代議長 故・高橋孝次さん



守り守られる安全安心なまちを目指す活動

生きがいがたくさんあるまち、共に生きる地域社会を作る活動

多世代のふれあいで、人と人とのつながりの豊かな地域社会を目指す活動

菅中学校区地域教育会議では**4**つの委員会を設置し、各委員会の活動をもとに様々な情報交換と意見交換を図っています。

「子ども会議」委員会



小学生・中学生による「体験型」と「ディスカッション型」の会議を企画・開催します。



子どもや地域を取り巻く問題についての意見交換・交流をします。

「教育を語るつどい」委員会

環境委員会



地域で子どもたちを健全に育成するために菅中学校区の「環境整備」について意見交換・交流・企画・開催します。

広報委員会



広報紙「のらぼう」発行をはじめ、菅中学校区地域教育会議の広報を担います。

一緒に活動しませんか？

「住民委員」を募集しています！

学校・地域・親・住民、様々な立場の人と一緒に、菅のことについて意見交換・活動してみませんか？



川崎市内の「7つの行政区」と「51の中学校区」すべてに地域教育会議があり、教育の社会化、地域の教育力向上、行政の市民化を理念としています。私たち「菅中学校区地域教育会議」は、次のような目的で活動します。

- 中学校区の子育て、住民自らの生涯学習について、親・教師・住民の話し合いにより、合意を作り出し、そのネットワーク化を図ります。
- 教育行政への学区内住民の総意を反映させるため、日常生活圏に根ざした教育への市民参加の恒常化を図ります。
- 地域教育振興・発展のために活動する諸団体と連携・協力するとともに、自主独立の団体として地域の教育改革を図ります。

※活動を進めるうえで、広く住民委員を随時募集しています。
任期は1期2年です。

活動している4つの委員会

- ・「教育を語るつどい」委員会
- ・「子ども会議」委員会
- ・環境委員会
- ・広報委員会

【お申し込み・お問い合わせ】

菅中学校区地域教育会議アドレス【chiiki214@yahoo.co.jp】
または【090-2630-1771（議長：羽鳥）】へ
お電話もしくはSMS（ショートメッセージ）にて、ご連絡ください。



【chiiki214@yahoo.co.jp】